

平成 25 年度継続事業に関する継続評価書

研究機関 : 日本電信電話株式会社、日本電気株式会社、富士通株式会社

研究開発課題 : 超高速・低消費電力光ネットワーク技術の研究開発
課題Ⅱ 基幹ネットワーク高速大容量化・低消費電力化技術

研究開発期間 : 平成 24 ～ 26 年度

代表研究責任者 : 富澤 将人

■ 総合評価 : 適(適／条件付き適／不適の3段階評価)
(評価点 22 点／ 25 点中)

(総論)

引き続き研究開発を推進することが適当。

(コメント)

- 実質半年間の研究期間であるが、計画通りの進捗であり、今後も十分な成果が期待できる。
- 特筆すべき成果が現時点では見られないため、特にオープン・イノベーション体制ならではの特筆すべき成果を今後大いに期待したい。
- 日本の国際競争力の維持のために支援が必要である。
- 最終的にできあがる LSI のパフォーマンスは世界最高のものである。システム全体のコストも低下する。

(1) 当該年度における研究開発の目標達成(見込み)状況

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4点

(総論)

計画通りの成果が得られ、一部に進歩的な成果が認められる。
順調に目標を達成している。

(コメント)

- ほとんどの項目で方式検討が終了し、一部の項目でシミュレーションプラットフォームの構築が行われており、年度内の研究目標がおよそ達成できる段階にある。
- 研究発表では特許出願が予定を下回っているが、年度内にはある程度の上積みが見込まれる。
- 特に問題はない。

(2) 当該年度における研究資金使用状況

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4点

(総論)

研究資金が有効かつ効率的に執行されている。
予定通り支出されている。

(コメント)

- 研究費はほぼ予算通り執行されている。
- 特に問題はない。

(3) 研究開発実施計画

(SABCD の5段階評価) : 評価 S

評価点 : 5点

(総論)

研究開発の実施計画は実施期間を通して実行可能であり、有効かつ効率的に組まれている。
柔軟な研究計画となっている。

(コメント)

- 研究が順調に実施されており、また一部の課題については H25 年度分の前倒しも可能としている。
- 課題(c)「適応誤り訂正・適応非線形信号補償技術」と課題(d)「低消費電力信号処理回路技術」については方式検討段階のものが多いため、今後の研究開発に期待したい。
- 最終年度目標達成のために 25 年度の計画の大部分を 24 年度に前倒しすることとなったが、基本計画書の達成目標が上方修正されたことに伴い、25 年度に多くの研究開発で回路の試作を行うこととなった。

(4) 予算計画

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4点

(総論)

翌年度の研究開発実施計画との整合が図られ、全体的に適切な計画となっている。
具体的かつ明確である。

(コメント)

- 有効かつ効率的な予算計画が組まれており、積算額も妥当である。
- 特に問題はない。基本計画書の達成目標が上方修正されたことに伴い、25 年度に相当の予算が必要となった。

(5) 実施体制

(SABCD の5段階評価) : 評価S

評価点 : 5点

(総論)

研究開発を実施する体制は妥当である。必要な修正が行われ、かつ翌年度の実施計画との整合が図られている。

適切に実施体制が組まれている。

(コメント)

- 人事異動や担当業務変更のため、実施責任者と研究開発メンバが若干入れ替わっているが、問題ない。
- 本プロジェクトでは、機能ブロックの枠を超えて各社のより良い技術を取り入れていく形態をとっている。